

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会	代表者	谷口 いづみ	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所との共生施設であり、園児との交流が図れることが大きな特徴である。日々、子どもたちと触れ合うことで、元気をもらっている。 ・活動意欲を高めるために、「～したい」「～に行ってみたい」気持ちを受け入れながら、外出レクリエーションや菜園活動に力を入れている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 「いろりの郷」	管理者	秋草 ゆみ枝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	5人	1人	1人	0人	0人	3人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価できていないところについては、研修を積むことで改善に向けて取り組む。職員会等で自身の支援について振り返りをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「できていない」ことでも項目によりできているように感じるものもある。評価に向かうにあたり、各項目の確認を行い、思いを同じにして取り組む必要があると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果よりできている方が多い項目もあると思う。職員の評価の目線を統一して実施することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価についてあらためて内容を確認する。その中で捉え方の違いや、できないことを明らかにしながら、具体的な改善策を考え共通理解していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・正面玄関の開放時間を決め、門扉には地域の方が気軽に入ってきてやすい看板を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りにわかりやすい看板を設置して、送迎終了後閉門とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の安全面の確保も共生施設では必要なことである。利用者にとって「いいところだ」という思いは、居心地の良さにつながっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先の花壇や施設内外を整備することで、地域の方々にも居心地の良さが伝わるように環境を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の行事には、引き続き参加して関わりを深めていく。サロン等の地域交流にも、機会あるごとに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会行事には参加させてもらっている。少しずつではあるが、他自治会の行事の参加も出来るようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所が何をしている施設なのかまだまだ知られていないのではないかと。機会があれば、見学の受け入れや自治会長や民生児童委員の方には知っていただく働きかけを行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会のサロンに出かけた時などに、いろりの郷について知ってもらう取り組みを行う。自治会の行事には積極的に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で利用者の共有を図り、思いをうまく表現できない方についても寄り添った支援に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に寄り添った支援をすることで、少しでもご本人の慣れ親しんだ生活が継続できるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事などの情報提供はありがたいこと。独居の方の会議に近隣の方の参加があり、支援の協力が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを聞き取り、出かけてみたい場所やしてみたいことをすすめてみる。また、一つでも多く地域活動の参加を図る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方の事例については、必要に応じて話し合いをもち、包括支援センター等の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか地域の方の事例について話をする機会は無かったが、この会で取組み、また役場の方に助言がいただけることは周知できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外の地域の心配な方についての話し合いは、なかなか出来にくいですが、いつでも相談できることは、心強いことだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で出した意見をいろりの郷新聞に取り入れることで、取り組みについて知ってもらう。必要に応じて、事例についての話し合いをもつ。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に防災・災害計画を提示する。総合訓練日を事前に知らせ参加してもらう。当自治会の防災訓練には積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画や実施状況の報告ができた。引き続き自治会の防災訓練にも参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練には参加できなかった。災害時頼りになる施設になるために、日頃から AED の使い方や心肺蘇生などの研修が必要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月防災・災害訓練を実施しているが、これからもさまざまな場面を想定した訓練をしていく。当事業所が「頼りになる施設」となるように、活動内容や備品について地域に知らせていく。

